



追加代金のない 葬儀社の見分け方

- ・ 国民生活センターへの葬儀トラブル相談件数は過去最多（2025年）
- ・ ネットの仲介型葬儀社を利用で3件に1件の割合で追加代金（2025年）
- ・ わずか10日間に4件の料金トラブル報道（2025年）

「お葬式の費用くらいは自分で用意して…」の落とし穴 「葬儀トラブル」激増のウラで数十万円もの「高額オプション」上乗せ問題

2025年12月30日 11時2分 デイリー新聞

みんなの感想は？

「追加料金なし25万円プラン」の家族葬のはずが、オプション地獄で最終的に倍以上かかりました。家族葬でもこれくらいかかるものなのでしょうか？

12/28(日) 8:20 配信 25

ファイナンシャルフィールド

「19万8000円で家族葬」のはずが…急逝した82歳・父を見送った月収45万円・55歳長男、会計時に震えが止まらなかった「予想外の請求額」

12/22(月) 5:00 配信 345

THE GOLD ONLINE

「ごちんまりした葬儀」希望も490万円提示、見積書サイン盾にキャンセル料・遺体返還も即座に応じず…トラブル相談最多

12/29(月) 17:21 配信 179

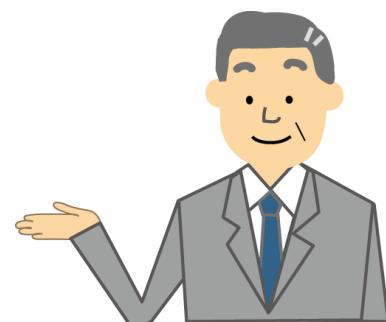
読売新聞 オンライン

など、料金トラブルの報道が後を絶ちません。

この小冊子では、

- ・ 料金トラブルが起こる理由
- ・ トラブルの回避法

について「生活者保護の視点」でお伝えします。



料金トラブルが 起こる理由

基礎知識 ☞ 料金は「支払い総額」で考える

葬儀の「支払い総額」は

葬儀料金（プラン料金 + オプション料金） + 葬儀社以外の費用
となります。

なお広告で見かける「家族葬〇〇万円」はプラン料金なので、
広告の料金だけでは絶対に葬儀はできません。

① 「総額」の定義の食い違い

生活者にとっての総額とは「お財布から支払う合計金額」ですが、
葬儀社にとっての総額は

- ① 自社が領収書を発行する部分
- ② 自社が集金を行う部分

（例：料理・返礼品は見積に含むが火葬料金は含まない 等）

など会社によって「総額にどこまで含むのか」判断がわかります。

このため見積書に記載されない料金があることも珍しくありません。

② 安い価格を伝えたほうが「集客できる」

葬儀はどこの葬儀社も似たような内容、と思われがちのため、
料金で比較して葬儀社を選ぶ傾向があります。

近年は葬儀広告が増えるなど過当競争状態であることもあり、
他社よりも安い価格を提示しないと集客できない、との焦りも
あって実際よりも安い金額を提示されるケースが増えています。

支払いタイミングが複数回ある（お布施は通夜・火葬料は火葬日・葬儀
料金は葬儀後 など）ことも支払い総額が把握しづらい一因となってい
ます。

また近年は葬儀社のM&Aも盛んであり、投資した資金回収目的
での押し売り行為も問題になっています。

料金トラブルを防ぐには？

安い、よりも正直か、が大事

どうしても安さで比べがちになりますが、そもそも見積が正直でないと、料金や内容の検討ができません。

葬儀社は見た目の安さよりも誠実さで選ぶべきなのです。
見分け方を以下に解説します。

× 相見積もりをする

昔から葬儀社を選ぶ際は「**相見積もりをすると良い**」と言われていましたが、金額を実際よりも安く見せかける手法の増加に伴い見積書の信頼性が問題となっています。

実際、2023年に毎日新聞 笑顔のお葬式が実施した事前相談立ち合い調査によれば、必要な物品の未記載や数量の過少記載など**追加代金の発生する見積は全体の9割**にものぼっています。

また見積を見て「契約の内容をよく確認しましょう」という意見もよく見受けられますが、中々難しいものです。

では、どうすれば追加代金のない葬儀ができるのか、というと・・・

○ 「このほかに支払うものはないですね」と念を押す

見積書を貰ったら、**合計金額を指さして**

「このほかに支払うものはないですね？」と念を押します。

このとき

「大丈夫、これでできるよ」と言ってくれる葬儀社は合格。

「このほかに、あれとか、これとか・・・」と数字の後出しをする葬儀社は要注意です。

また、見積項目に人数増などに対応するための**予備費**を記載する葬儀社は「お支払いは見積以内となる安心感」を重視している葬儀社である可能性が高いので安心、と言われています。

葬儀で大切なのは・・・

①料金トラブルはお金の問題だけじゃない

料金トラブルの体験談にこのようなものがあります。

「事前に相見積もりして葬儀社を決めていたのに、臨終後の見積は40万高くなった。

葬儀中もモヤモヤして、葬儀に全く集中できなかった」



料金トラブルが気になって、最後の時間が台無しになる。これって、あってはいけないことだと思います。

昔の葬儀社選びは逝去後に行うのが普通でした。でもこれからは、**料金トラブルのない葬儀社を事前に探すことが必然**となりました。

②料金トラブル番外編 葬儀費用はどこから出す？

故人様の預金を使って葬儀をすればいい、と考えることは少なくありません。でも預金は「相続財産」です。

「葬儀は預金で」ではなく、預金のうちいくらを葬儀で使うのか明確にしておかないと、喪主を務めた長男が「兄さん、使い過ぎじゃないの？」と他の兄弟から怒られることがあります。

預金を葬儀の支払いに充てる場合は、**事前に葬儀社に「支払い総額」を確認し、支払い方針を相続人間で共有**などの準備が必要です。

また預金是一部を除き相続完了まで凍結されるので、**葬儀費用の支払期限の確認や、支払いに充てる目的での保険の契約**もおすすめてです。子どもや孫が揉めない相続の一助として、ぜひご検討ください。



～ 誰もが当たり前 心癒されるお葬式ができるように との願いを込めて ～

生活者視点の葬儀情報① 追加代金のない葬儀社の見分け方

監修：葬儀を考える消費者の会：re 葬儀相談員 松瀬教一

〒189-0012東京都東村山市萩山町1-7-7 TEL03-4595-0251（ブレードワークス内）